

特集

SHINDANSHI
CROSSTALK

診断士

クロストーク

診断士に必要なスキルとしてよく挙げられるのが、「診る」、「書く」、「話す」の3つである。いずれも重要な能力で、それぞれが関連する部分もあるため、バランス良くすべての能力を備えることが求められる。本特集では、各分野の経験豊富な診断士と気鋭の若手診断士によるクロストークを行った。その先に生まれたものとは――。



診断士としての活躍や成功のヒントに―― **多様な視点を得られるクロストーク** 神宮司絢佳

- テーマ① **診る**
 伊藤嘉基氏 ((株)アビーム) × 木伏源太氏 (日本経営システム(株)) 司会・文 神宮司絢佳
- テーマ② **書く**
 原 正紀氏 ((株)クオリティ・オブ・ライフ) × 庵谷賢一氏 (シンガー・コンサルタント/芸能コーチ) 司会・文 平井彩子
- テーマ③ **話す**
 後閑和子氏 (THE NEXT) × 橋本尚久氏 ((株)ネクサク) 司会・文 平井彩子

特集 **診断士 クロストーク** ①

SHINDANSHI
CROSSTALK

診断士としての活躍や成功のヒントに―― 多様な視点を得られる クロストーク

神宮司絢佳
中小企業診断士

1 診断士として活躍したいあなたに

「診断士って、実際はどのような仕事をしているのだろう」、「診断士資格を取ったもの、これからどのような仕事を行っていくか」――受験勉強中や、資格を取られたばかりの頃、そんなふうに思ったことはないでしょうか。

また、「やりたい仕事になかなかめぐり会えない」、「これから、もっとさまざまな仕事をしていきたい」――そんな方もいらっしゃるでしょう。本特集「診断士クロストーク」は、上記のようなお悩みを抱える皆さんに、仕事のヒントをつかみ、今後の活躍につなげていただくための新企画です。

報告書や企画書の作成、プレゼン資料の作成など、主に文字や文章・図表などを用いた成果物を作成する仕事を指します。

そして「話す」とは、企業研修や商工会議所などでのセミナー・講演の仕事、クライアントへの報告会プレゼンテーションなどのことです。

いずれも診断士にとっては必要なスキルで、かつ仕事として価値を提供できるものです。三者が関連する部分もあるため、バランスを保ちつつ、すべての能力が必須のものと言えます。

たとえば企業にコンサルティングを行う場合は、課題の抽出や改善策の提案といった「診る」能力、

2 診断士の仕事における3つの軸

一般に、診断士の仕事として言われるのが、「診る」、「書く」、「話す」の3つです。

「診る」とは、コンサルティング業務そのものです。経営戦略や事業戦略、営業や財務、ITなどさまざまな機能にかかわる課題解決全般を含み、実際の業務は、企業と顧問契約を結んだコンサルティングや、スポット的なアドバイザー業務、商工会議所の経営相談など多岐にわたります。

「書く」とは、雑誌や書籍、論文などの執筆や、

――「診る」「書く」「話す」の間にある密接なつながり――

